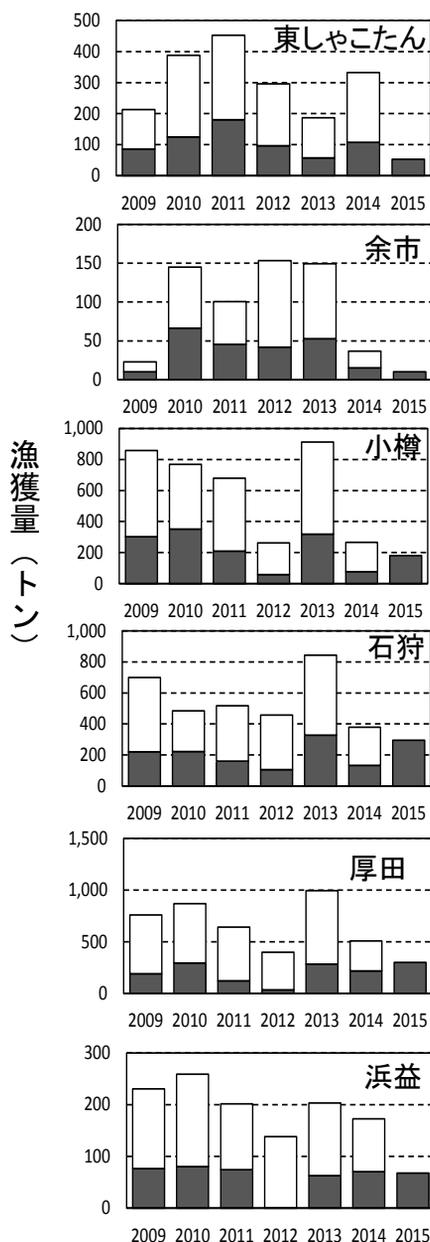


平成26年度 石狩湾系ニシン 漁期前半の状況と今後の見通し

平成27年2月23日 中央水産試験場

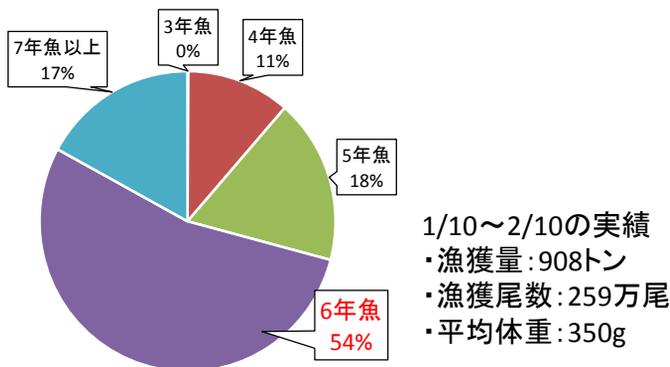
1. 漁期前半の状況

今期は1月10日の解禁後より石狩湾内で順調に漁獲があり、2月10日時点の沿岸の総漁獲量は908トン（道庁速報値）となっています。各地区の漁獲量を2009年以降（資源高水準期）と比較すると、石狩・厚田両地区でそれぞれ約300トンと、いずれも同期比では過去最高に近い水準となっています。一方、東しゃこたん・余市方面は低い水準で推移しており、小樽地区は、昨年や2012年など序盤ほとんど漁獲がなかった特異年よりは多くなったものの、それ以外の年には及んでいません。留萌以北沿岸では今期も今のところほとんど漁獲がありません。



2月10日時点までの漁獲物組成（漁獲尾数259万尾・平均体重350g）は、6年魚（2009卓越年級）が重量比で全体の54%、それより高齢の大型魚が重量比17%を占める大型組成となりました。6年魚以上の漁獲尾数としては、2012年に次いで多く171万尾と推定されます。

大型ニシン好漁の要因は、昨年、2009年級が5年魚として高豊度の来遊資源を構成しながらも、異常海況のため前浜への来遊時期・海域が集中的になり十分に漁獲することができず、そのとき取り残された魚が今年サイズアップして再来遊したことに尽きます。今期は海況が漁期前から平年並みで推移してきたことから、産卵期の早い5年魚以上が早い段階で湾内に展開していたとみられ、解禁後から1月末の産卵盛期まで、小樽・石狩・厚田と湾奥中心に漁がまとまっていった状況とみています。



1/10～2/10の実績
 ・漁獲量: 908トン
 ・漁獲尾数: 259万尾
 ・平均体重: 350g

図1 湾内各地区の漁獲量（道庁集計データより）
 ■: 2月10日時点まで □: 3月末まで

図2 2月10日時点までの漁獲物重量比(2015年)

2. 今後の見通し

2月中旬の漁獲統計は現時点で未集計ですが、湾沿岸の浜回りで受けている印象では、大型魚は薄くなり、旬前半は5～6年魚に4年魚（2011年級）が混じる漁模様で進み、15日前後のシケをはさんでから一気に4年魚主体、そしていよいよ3年魚（2012年級）が混ざってきているようです。日によっては30トン以上まとまった地区もあるようですが、全体的には当初の予想どおり4年魚である2011年級は「極端に少なくもないが多くはない」年級で、中旬以降の漁獲を飛躍させるような資源豊度ではないと考えられます。

3月に入ると3年魚主体の来遊となります。当該の2012年級は漁期前調査の段階では比較的高豊度と予想しているものの、これまでの年級群の中では最も成長が遅いため、今期は網目から抜ける割合が高くなり十分に漁獲対象とはならない見込みです。しかし、資源量が著しく高く来遊があった場合には、比較的成長の良い個体がそれなりの漁獲増につながる可能性も多少持っています。

ただし、3年魚の取り残し分は、来期以降4、5、6年魚として年々サイズアップして再来遊し漁獲の中心になっていくうえに、3月以降に産み出された卵・仔稚魚は生き残り易いことから、2015年級を高豊度年級として2019年以降の漁獲物に加入させるためには極めて重要になります。すなわち、3年魚への過度な漁獲は、明らかに来期以降のリスク要因となりますので注意が必要です。